

# 市議会報告

市議会議員  
湯浅美和子



## ◆千葉市のお財布、 いよいよカラッポ!

18年度決算に反対しました

千葉市の普通会計が統計史上初めて1億7100万円の赤字をだしました。関東では赤字自治体は千葉市だけ。

自治体の財政力を判断する「実質公債費負担比率」が、千葉市は政令市でフースト2位。政令市移行後の都市基盤整備のための事業が、将来への負担を増やし数値に跳ね返ったというのですが、それだけではありません。蘇我臨海部、千葉駅西口、中央第6地区など千葉市が抱えてきた大型公共事業も大きな負担。18年度決算では、建設事業費689億円のうち、38.8%の267億円がこれら大型公共工事へつぎ込まれています。

今年度見直される第2次5カ年計画は、残り3カ年を当初の半分の規模に縮小するとのこと。ネットでは以前より、市債を減らす方向での財政再建を訴えてきました。財政の見直しは大切ですが、あまりに急激な緊縮の市民への押し付けは、まさに首長としての失策!

予算編成過程の公開をはじめ、事業の選択にいかん市民の声を受け止めていくかが問われています。

### 千葉市 出前講座のお知らせ

11月7日(水) 10時30分~12時  
みはま事務所にて

「千葉市のお財布の中身は?」

千葉市財政局の方に平成18年度決算について解説してもらいます。千葉市の財政状況、みんなで監視して行きましょう!  
どうぞお出かけ下さい。

### ◆おびやかされる子どもの安全 耐震診断結果を長年放置!

市民ネットワークで、大規模地震で倒壊する危険性の高いS値0.3未満の施設名の情報公開を求めたところ、S値0.00の花見川第一、0.005の募張第二保育所と信じがたい数値の保育所2ヶ所を含めた保育所7ヶ所と、学校施設11棟の施設名が示されました。阪神淡路大震災をうけ、10年も前に耐震診断を実施しながら、その結果を、子どもの命を預かる現場職員にも知らせず放置してきたのです。

直ぐに現地調査をし、申し入れ書を提出。議会でも、保護者等への謝罪を求め、遅れた原因、責任の所在を質しました。担当課として危機管理意識が薄かった、対応の遅れについては反省

する、また原因として保育所民営化の検討があったとの答弁でした。

10年間、多額な税金を投入し箱物が次々と建設される一方で、民営化という経済性の検討の中、子どもの安全がおびやかされていたのです。市は今年度中に、災害時に避難場所となる学校施設をはじめ、公共施設の耐震改修促進計画を公表しますが、総力をあげての対応を求めています。

### ◆放置自転車対策の 決め手となるか 自転車駐輪場の料金改定

点字ブロックの上にさえ置かれる駅前の放置自転車。かたや、駅から遠くなるにつれ、空きが目立つ駐輪場スペースに疑問を感じる方も多く、ネット事務所へも対策を求める声が寄せられています。稲毛海岸駅前は、市内でもフースト4位の放置自転車数。駐輪対策は市にとっても緊急な課題です。

来年4月より、駐輪場料金が改定され、場所によって料金に差をつけ、放置自転車を駐輪場へと誘導することになりました。成功させるには、撤去の徹底と市民への啓発も必要です。現在700円/月が、便利な場所では上限2000円まで引き上げることができるよう、駅から遠くなるほど料金は安くなります。平均は900円程度になるとのこと。場所ごとの料金設定には、充分に周辺住民の意見を求めることを要望しました。

生活みつめれば

# 政治

市政相談日  
毎週木曜日  
10:30~16:00



稲毛海岸駅前の自転車

# みはまだより

## 高洲・高浜地区から

### 子育てフォーラム準備会、会員募集中!



絵・宮下玲子

千葉市にも児童館を!という「高洲高浜に児童館をつくる会」の長年の運動がやっと日の目を見ようとしています。今年4月の美浜区保健福祉センター創設に伴い、高洲コミュニティセンター隣にある旧保健センター施設が、来年1月からは子どもと高齢者のためのスペースとして生まれ変わることになりました。具体的には「美浜区いきいきプラザ」の出先機関として元気高齢者のための健康支援事業、働く家庭の児童が放課後を過ごす「子どもルーム」事業、乳幼児の子育てをする親子の居場所となる「子育てリラックス館」事業などです。さらにこれまでの署名活動や要望活動の成果として、子育てリラックス館の1スペースを地域の子供たちが気軽に立ち寄り、自由な時間を過ごせる居場所として使えることになったのです。

しかし、市の財政難に加えて、そもそも「児童館」ではないため専門職の配置は望めないのが現状。そこで、地域の子育て力を集めて子供たちの居場所事業のサポートをしていこうと『美浜区子育てフォーラム準備会』が8月に有志で立ち上がりました。まずは、1月のオープンに向けて、企画を練っています。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。

《連絡先 090-9303-1090 大石》

## 稲毛海岸地区から

### どうなる? 公務員住宅跡地



立ち入り禁止の広大な敷地

2006年4月から閉鎖されたままの稲毛海岸5丁目公務員住宅。その跡地はどのように利用されるのか。千葉市企画調整局政策調整課に話を聞きました。

### ■半分以上を民間に処分?

国としては敷地118000㎡のうち、41000㎡に約1000戸規模の合同宿舍を建設予定、敷地内にある東西の道路から南側が計画地域。2008年度から設計を開始すること。残地77000㎡は具体的には未定。(おそらく住宅用に売却処分)。これは、今年6月に出された、国有財産の有効活用に関する・フォローアップ有識者会議の「国有財産の有効活用に関する報告書」に基づいて作られた計画であるとのこと。

千葉市としては、財政的に余裕がないため、残地を買う予定はないとのこと。民間に処分する場合には、市のまちづくりや周辺環境などに充分配慮した土地利用がなされるよう「企画提案方式」を採用するよう国に申し入れてあるとのこと。

### ■市民の声を生かして

美浜区にとっては貴重な空地。マンション開発というてっとり早い方法ではなく、市民の声が生かされた土地活用になるよう国に対しても情報公開と説明責任を求めています。

(稲毛海岸・TJ)

## 県議会報告

### 山が消える!

県議会議員・大野ひろみ



すっかり削られた山々 (撮影: 大野ひろみ)

10月議会にて年に一度の議会質問をした。30分間でたくさん質問をしたが、特に力を入れたのが「羽田新滑走路建設に使われる山砂採取問題」。

40年ほど前から、首都圏のビル建設用に君津・富津・袖ヶ浦などの山砂が、8億㎡(東京ドーム645個分)削られた。そして今回、新たに羽田用に3千万㎡(東京ドーム24個分)が削られる。山を丸ごと消滅させるという究極の環境破壊が、「産業」の名の下に堂々と行われているのだ。そして、あとに残った大穴に土を入れて平らにし、木をポツ、ポツと植えて「緑化復元」と称している。森林保全も、生態系も、地下水系もおかまいないし。こんな自然破壊と、生物多様性ちば県戦略を同時進行させている堂本知事に、「環境保全の視点を取り戻して!」と具体的な提案もまじえて訴えたが、答弁はスラスラ。千葉県の環境政策は「砂上の楼閣」。私は砂をかみ思いをしたのだが、砂も積もれば山となる? これからもめげずに吼え続けるぞ!